

企業物流短期動向調査（日通総研短観） 調査結果

（2012年9月調査）

2012年10月

株式会社 日通総合研究所

目次

I. 調査の内容	1
II. 調査の結果	3
1. 国内向け出荷量の動向	3
2. 輸送機関利用の動向	7
(1) 一般トラック	8
(2) 特別積合せトラック	9
(3) 宅配便	10
(4) 鉄道コンテナ	11
(5) 内航コンテナ	12
(6) 国内航空	13
3. 輸出入貨物量の動向	14
(1) 外貿コンテナ ー輸出ー	15
(2) 外貿コンテナ ー輸入ー	16
(3) 国際航空 ー輸出ー	17
(4) 国際航空 ー輸入ー	18
4. 在庫量と営業倉庫利用の動向	19
(1) 在庫量 ー原材料ー	20
(2) 在庫量 ー製品ー	21
(3) 営業倉庫保管量	22
5. 運賃・料金の動向	23
(1) 一般トラック運賃	24
(2) 特別積合せトラック運賃	25
(3) 鉄道コンテナ運賃	26
(4) 内航コンテナ運賃	27
(5) 国内航空運賃	28
(6) 営業倉庫保管料金	29
6. 物流コスト割合の動向	30

I. 調査の内容

目的 : 本調査は、足もとの出荷状況等を各企業（事業所）の物流担当者に直接回答していただくことで、荷主企業の物流動向について業種横断的かつ包括的な情報を、データの形で迅速に公の場に提供することを目的として実施するものである。

方法 : 本調査はアンケート方式により、四半期ベース（3月、6月、9月、12月の年4回）で実施する。

調査項目は次のとおりであり、当期実績見込みと次期見通しを対前年同期比「増加する」、「横ばい」、「減少する」もしくは「値上り」、「変わらない」、「値下り」等の3つの選択肢の中から選択回答する。

1. 国内向け出荷動向
2. 輸送機関別利用動向（一般トラック、特別積合せトラック、宅配便、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空）
3. 輸出入貨物の動向（外貿コンテナ、国際航空）
4. 在庫量（原材料、製品）と営業倉庫利用の動向
5. 運賃・料金の動向（一般トラック、特別積合せトラック、鉄道コンテナ、内航コンテナ、国内航空、営業倉庫保管）
6. 売上高に対する物流コスト割合の動向

集計は、調査項目ごとに各選択肢の回答事業所数を集計し、その合計事業所数に対する割合を算出、以下により動向判断指標^(*)とする。

$$\text{動向判断指標} = \left[\begin{array}{l} \text{「増加する（値上り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right] - \left[\begin{array}{l} \text{「減少する（値下り）」と} \\ \text{回答した事業所割合} \end{array} \right]$$

なお、この指標は荷動き等に対する各事業所の（定性的な）動向を集約するものであり、この結果がそのまま全体としての（定量的な）出荷量などの増減を意味するものではない。

(*) 動向判断指標：本調査では、調査項目に応じて『荷動き指数』、『運賃動向指数』等の名称を付している。

調査対象 : 製造業、卸売業の主要2,500事業所を対象とする。

－今回調査の回収・集計状況－

今回調査は、2012年7～9月の実績と2012年10～12月の見通しを9月初旬時点でうかがったものであり、1,085社からご協力をいただき、回答率は43.4%となった。

なお、業種別にみた調査対象企業数、回答企業数ならびに回答率は、次表のとおりである。

調査対象企業数と回答企業数

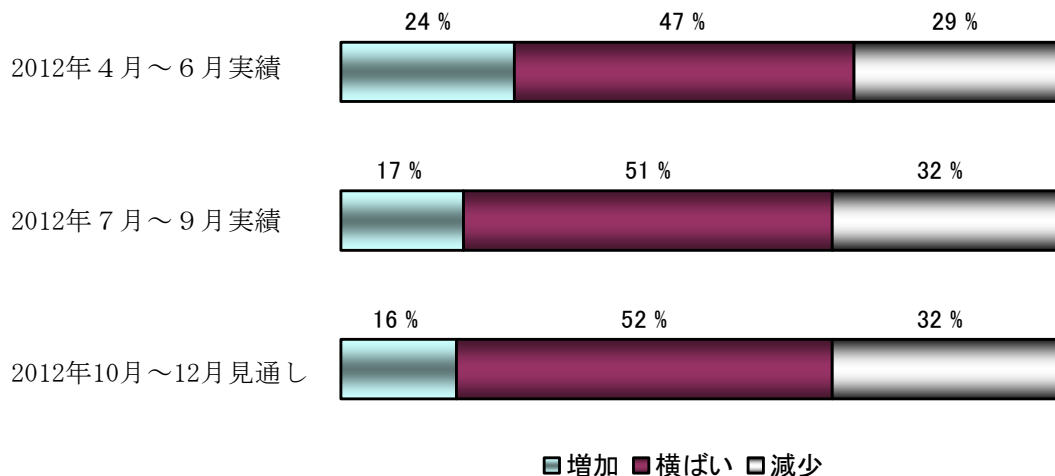
業 種		調査対象 企業数	回 答 企業数	回答率(%)
製 造 業	食 料 品 ・ 飲 料	232	107	46.1
	繊 維 ・ 衣 服	111	49	44.1
	木 材 ・ 家 具	96	42	43.8
	パ ル プ ・ 紙	107	54	50.5
	化学・プラスチック	239	110	46.0
	窯 業 ・ 土 石	102	38	37.3
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	195	98	50.3
	金 属 製 品	128	60	46.9
	一 般 機 械	222	92	41.4
	電 気 機 械	333	127	38.1
	輸 送 用 機 械	251	106	42.2
	精 密 機 械	67	26	38.8
	そ の 他	167	57	34.1
	計	2,250	966	42.9
卸 売 業	生 産 財	124	70	56.5
	消 費 財	126	49	38.9
	計	250	119	47.6
合 計		2,500	1,085	43.4

Ⅱ. 調査の結果

－ 1. 国内向け出荷量の動向－

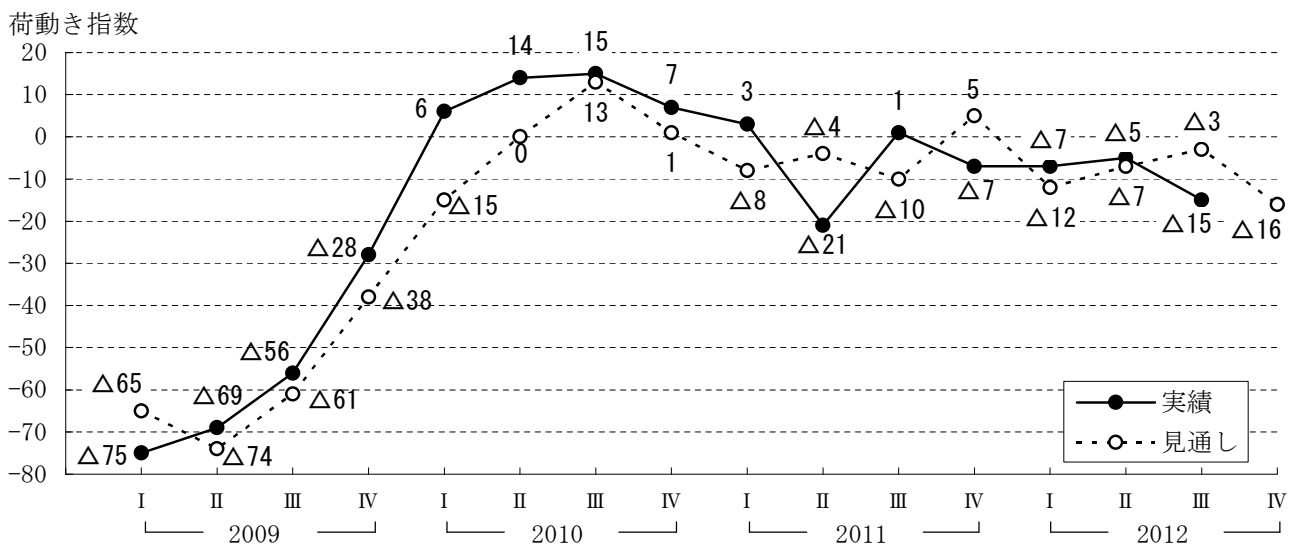
- 7～9月実績（見込み）における国内向け出荷量の動向をみると、前年同期比で「増加」との回答が前期（4～6月）実績より7ポイント低下し17%となった。また、「減少」との回答は前期より3ポイント上昇し32%となり、この結果『荷動き指数』（＝「増加」の回答割合－「減少」の回答割合）は10ポイント低下して△15となった。
- 10～12月見通しの出荷量については、前年同期比で「増加」との回答が前期（7～9月）実績（見込み）より1ポイント低下し16%となる一方、「減少」との回答は横ばいで推移するとみられる。この結果『荷動き指数』は1ポイント低下して△16と見込まれる。

国内向け出荷量の実績と見通し



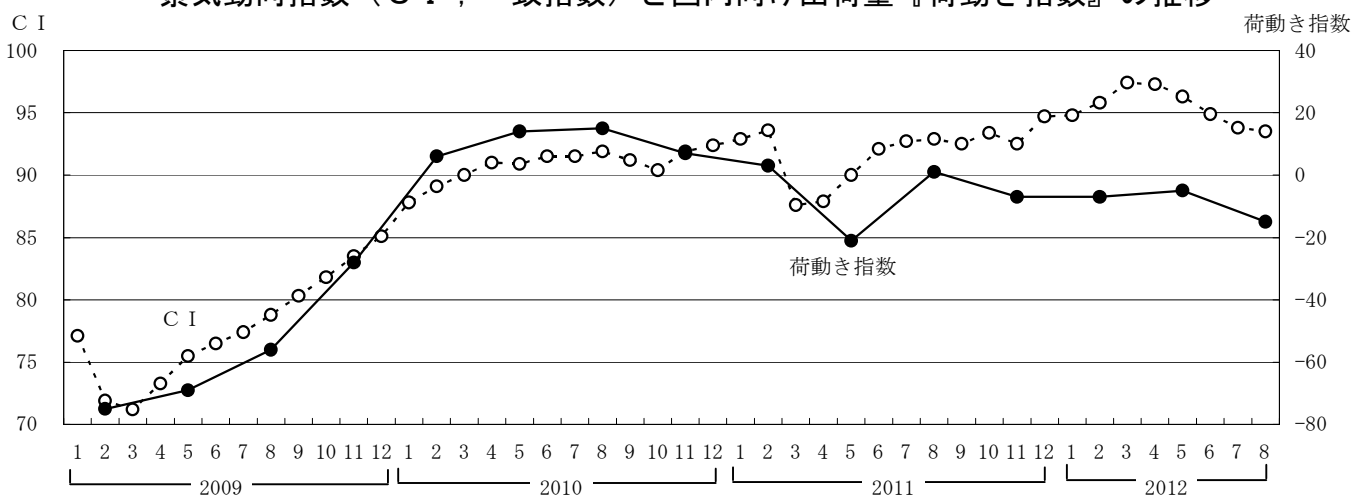
■ 今回調査の『荷動き指数』を前回までの調査と比較すると、2011年4～6月実績では、東日本大震災の影響を受けて、『荷動き指数』が△21と6期ぶりにマイナスに転じたが、サプライチェーンが復旧した7～9月実績において、V字型の回復によりプラス水準へと浮上した。しかし、10～12月実績で△7と再びマイナスに沈んだあと、水面下の推移が続き、2012年7～9月実績（見込み）では前期比で10ポイントの大幅な下落となった。また、10～12月見通しにおいてもさらなる下降が見込まれており、ここに来て荷動きの停滞の度合いがますます増しつつある。

荷動きの実績（見込み）と見通しの『荷動き指数』



注) 点線は各期に入る前の時点の見通しにおける『荷動き指数』(2012年IV期の『荷動き指数』は今回調査時点の見通し)、実線は各期の途中の時点で判断した実績見込みの『荷動き指数』(2012年III期の『荷動き指数』は今回調査における判断)。

景気動向指数 (C I ; 一致指数) と国内向け出荷量『荷動き指数』の推移



注) 1. 荷動き指数は四半期ごとの数値のため、2月、5月、8月、11月の位置にプロットしている。
2. 景気動向指数研究会によると、第14循環における景気の山は2008年2月、景気の谷は2009年3月となっている。

■ 7～9月の業種別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、多くの業種において前期（4～6月）実績よりも悪化がみられた。プラスの業種は皆無で、精密機械が唯一ゼロ水準にとどまる以外は、残り14業種がマイナスとなった。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、食料品・飲料および精密機械がプラスに浮上し、木材・家具および窯業・土石もゼロ水準まで戻すなど過半数の業種において改善がみられ、マイナスの業種は11業種まで減少する。一方、電気機械や輸送用機械では『荷動き指数』の大幅な悪化が見込まれており、業種により跛行性がみられる。

国内向け出荷量の実績と見通し（業種別）

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	105	16	59	25	△9	105	17	71	12	5
繊維・衣服	48	15	58	27	△12	48	2	69	29	△27
木材・家具	42	29	40	31	△2	42	19	62	19	0
パルプ・紙	53	9	48	43	△34	53	7	53	40	△33
化学・プラスチック	106	11	59	30	△19	106	17	53	30	△13
窯業・土石	37	19	57	24	△5	37	19	62	19	0
鉄鋼・非鉄	95	15	46	39	△24	95	13	47	40	△27
金属製品	58	16	50	34	△18	58	17	43	40	△23
一般機械	89	17	45	38	△21	87	15	45	40	△25
電気機械	126	21	44	35	△14	126	19	37	44	△25
輸送用機械	102	28	41	31	△3	102	19	37	44	△25
精密機械	25	24	52	24	0	25	24	64	12	12
その他	57	12	69	19	△7	56	8	63	29	△21
計	943	18	50	32	△14	940	15	52	33	△18
卸売業										
生産財	70	16	60	24	△8	70	17	60	23	△6
消費財	49	14	45	41	△27	49	16	51	33	△17
計	119	15	54	31	△16	119	17	56	27	△10
合計	1,062	17	51	32	△15	1,059	16	52	32	△16

■ 7～9月の地域別『荷動き指数』実績（見込み）をみると、東海が唯一プラスにとどまる以外は、残り8地域でマイナスとなった。前期（4～6月）実績との比較では、四国において改善がみられる一方で、その他の地域では悪化した。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、東北でプラスに浮上し、北海道および北陸・信越でも改善が見込まれる。一方、残り6地域ではさらに悪化するものとみられ、荷動き回復の動きは限定的である。

国内向け出荷量の実績と見通し（地域別）

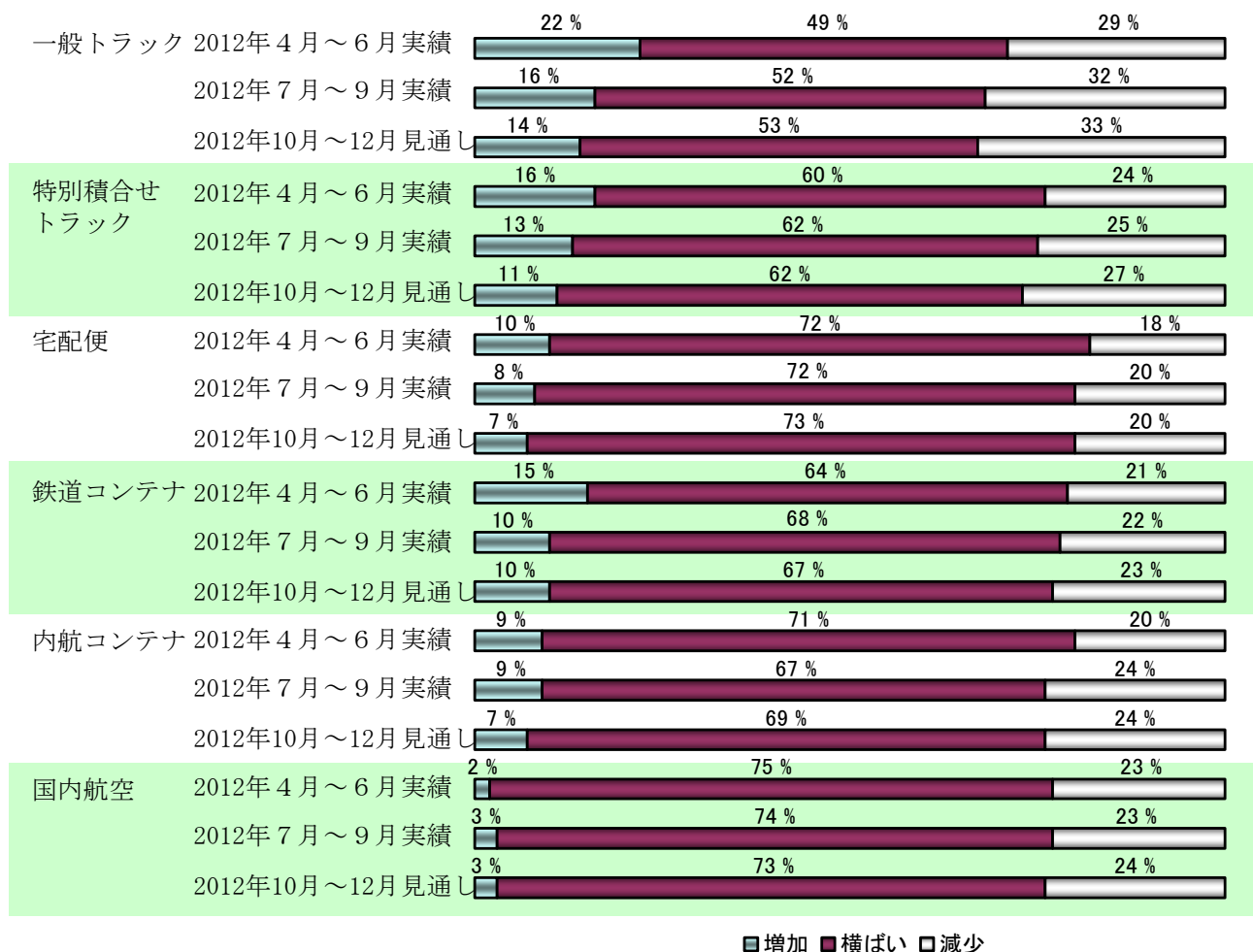
地 域	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し				
	回答 社数	構成比(%)			荷動き 指 数	回答 社数	構成比(%)			荷動き 指 数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
北 海 道	53	11	53	36	△ 25	53	11	64	25	△ 14
東 北	92	21	49	30	△ 9	92	22	58	20	2
関 東	266	19	48	33	△ 14	264	16	52	32	△ 16
北 陸 ・ 信 越	105	12	52	36	△ 24	105	17	47	36	△ 19
東 海	170	27	47	26	1	170	18	44	38	△ 20
近 畿	151	15	51	34	△ 19	150	13	53	34	△ 21
中 国	96	15	52	33	△ 18	96	11	54	35	△ 24
四 国	59	14	59	27	△ 13	59	17	49	34	△ 17
九 州 ・ 沖 縄	70	10	63	27	△ 17	70	8	66	26	△ 18
合 計	1,062	17	51	32	△ 15	1,059	16	52	32	△ 16

－ 2. 輸送機関利用の動向－

■ 7～9月実績（見込み）の輸送機関別『利用動向指数』をみると、すべての輸送機関でマイナスを示し、かつ国内航空が強含み横ばいで推移した以外は、前期（4～6月）実績よりも低下した。

■ 10～12月の見通しでは、すべての輸送機関で『利用動向指数』が低下する見込みで、かつすべての輸送機関で2ケタのマイナスを示し、利用回復に向けての足取りは引き続き重いものとみられる。

各輸送機関の利用の実績と見通し



(1) 一般トラック

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、精密機械が唯一プラスを示す以外は、残り14業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△16で、前期（4～6月）実績からは9ポイント低下した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、精密機械がゼロ水準に沈むほか、過半数の業種で『利用動向指数』が悪化する。業種全体の『利用動向指数』は3ポイント低下して△19と見込まれ、利用の減退圧力はさらに強まるものとみられる。

一般トラック利用の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	105	15	57	28	△13	104	16	64	20	△4	
繊維・衣服	40	7	60	33	△26	40	0	63	37	△37	
木材・家具	41	27	44	29	△2	41	19	59	22	△3	
パルプ・紙	54	11	41	48	△37	54	7	49	44	△37	
化学・プラスチック	108	11	59	30	△19	108	16	57	27	△11	
窯業・土石	37	19	49	32	△13	37	16	60	24	△8	
鉄鋼・非鉄	94	15	49	36	△21	93	13	47	40	△27	
金属製品	59	15	56	29	△14	59	17	46	37	△20	
一般機械	90	16	47	37	△21	87	13	48	39	△26	
電気機械	114	17	45	38	△21	113	16	42	42	△26	
輸送用機械	103	25	44	31	△6	101	18	36	46	△28	
精密機械	20	25	60	15	10	20	15	70	15	0	
その他	55	11	71	18	△7	53	8	64	28	△20	
計	920	16	52	32	△16	910	14	52	34	△20	
卸売業	生産財	63	19	57	24	△5	62	17	60	23	△6
	消費財	45	9	51	40	△31	44	9	57	34	△25
	計	108	14	55	31	△17	106	14	59	27	△13
合計	1,028	16	52	32	△16	1,016	14	53	33	△19	

(2) 特別積合せトラック

- 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、木材・家具および消費財卸がプラスで、残り13業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△12で、前期（4～6月）実績との比較では4ポイントの低下がみられた。
- 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、食料品・飲料がゼロ水準に浮上する一方、過半数の業種において悪化が見込まれる。業種全体の『利用動向指数』は△16と4ポイント低下する見通しで、利用の減退圧力はさらに強まるものとみられる。

特別積合せトラック利用の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	73	15	67	18	△3	72	17	66	17	0	
繊維・衣服	34	15	56	29	△14	34	6	65	29	△23	
木材・家具	27	30	48	22	8	27	22	67	11	11	
パルプ・紙	37	3	59	38	△35	36	5	56	39	△34	
化学・プラスチック	90	9	72	19	△10	89	9	74	17	△8	
窯業・土石	27	11	70	19	△8	27	4	81	15	△11	
鉄鋼・非鉄	64	9	68	23	△14	63	11	62	27	△16	
金属製品	42	10	64	26	△16	42	9	62	29	△20	
一般機械	70	16	51	33	△17	68	12	50	38	△26	
電気機械	98	13	55	32	△19	98	10	52	38	△28	
輸送用機械	76	17	58	25	△8	76	8	54	38	△30	
精密機械	10	0	90	10	△10	10	0	90	10	△10	
その他	40	7	78	15	△8	40	7	75	18	△11	
計	688	12	63	25	△13	682	10	63	27	△17	
卸売業	生産財	49	12	59	29	△17	48	15	60	25	△10
	消費財	29	34	42	24	10	29	31	45	24	7
	計	78	20	53	27	△7	77	20	55	25	△5
合計		766	13	62	25	△12	759	11	62	27	△16

(3) 宅配便

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、プラスの業種は皆無で、繊維・衣服、精密機械、消費財卸の3業種がゼロ水準で、残り12業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△12で、前期（4～6月）実績からは4ポイント低下した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、精密機械がプラスに浮上する一方、繊維・衣服および消費財卸がマイナスに落ち込む。業種全体の『利用動向指数』は△13と弱含み横ばいで推移する見込みで、利用の減退傾向に変化はないものとみられる。

宅配便利用の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	79	9	77	14	△5	78	12	74	14	△2	
繊維・衣服	40	15	70	15	0	40	10	75	15	△5	
木材・家具	32	12	69	19	△7	31	6	78	16	△10	
パルプ・紙	28	10	54	36	△26	28	10	61	29	△19	
化学・プラスチック	84	2	79	19	△17	84	0	86	14	△14	
窯業・土石	28	11	64	25	△14	28	7	72	21	△14	
鉄鋼・非鉄	64	0	83	17	△17	64	0	86	14	△14	
金属製品	52	6	67	27	△21	52	2	67	31	△29	
一般機械	84	5	68	27	△22	82	4	66	30	△26	
電気機械	104	13	66	21	△8	104	14	65	21	△7	
輸送用機械	86	8	72	20	△12	84	9	68	23	△14	
精密機械	24	21	58	21	0	24	21	71	8	13	
その他	46	9	74	17	△8	45	7	71	22	△15	
計	751	8	71	21	△13	744	7	73	20	△13	
卸売業	生産財	59	8	78	14	△6	58	10	76	14	△4
	消費財	38	11	78	11	0	37	8	78	14	△6
	計	97	9	79	12	△3	95	9	77	14	△5
合計	848	8	72	20	△12	839	7	73	20	△13	

(4) 鉄道コンテナ

- 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、木材・家具および金属製品がプラスで、残り13業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△12で、前期（4～6月）実績からは6ポイントの悪化がみられた。
- 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、木材・家具および金属製品がマイナスに沈み、プラスの業種は皆無となる。業種全体の『利用動向指数』は△13と弱い含み横ばいで推移する見込みで、この結果、引き続き利用の減退が続くものとみられる。

鉄道コンテナ利用の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	53	15	68	17	△2	51	15	67	18	△3
	繊維・衣服	12	0	67	33	△33	12	0	75	25	△25
	木材・家具	20	20	70	10	10	20	10	70	20	△10
	パルプ・紙	38	13	53	34	△21	37	16	49	35	△19
	化学・プラスチック	76	8	74	18	△10	76	9	73	18	△9
	窯業・土石	12	0	83	17	△17	12	0	83	17	△17
	鉄鋼・非鉄	39	2	72	26	△24	39	10	64	26	△16
	金属製品	21	14	76	10	4	21	4	86	10	△6
	一般機械	41	7	73	20	△13	41	5	71	24	△19
	電気機械	41	19	59	22	△3	41	14	59	27	△13
	輸送用機械	40	12	65	23	△11	40	7	70	23	△16
	精密機械	7	0	86	14	△14	7	0	86	14	△14
	その他	28	11	75	14	△3	28	11	64	25	△14
計	428	11	69	20	△9	425	10	68	22	△12	
卸売業	生産財	17	0	53	47	△47	17	0	59	41	△41
	消費財	17	12	59	29	△17	16	12	69	19	△7
	計	34	6	56	38	△32	33	6	64	30	△24
合計	462	10	68	22	△12	458	10	67	23	△13	

(5) 内航コンテナ

- 7～9 月実績（見込み）の『利用動向指数』は、木材・家具が唯一プラスを示し、窯業・土石およびその他の製造業がゼロ水準で、残り 12 業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△15 で、前期（4～6 月）実績からは 4 ポイント低下した。
- 10～12 月の『利用動向指数』見通しでは、その他の製造業がマイナスに沈むほか、金属製品などでマイナス幅が拡大する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△17 と 2 ポイントの低下が見込まれ、利用の減退圧力はさらに強まるものとみられる。

内航コンテナ利用の実績と見通し

業 種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	30	10	67	23	△ 13	30	10	73	17	△ 7
繊維・衣服	7	14	29	57	△ 43	7	0	57	43	△ 43
木材・家具	10	20	70	10	10	10	10	90	0	10
パルプ・紙	20	5	65	30	△ 25	20	5	65	30	△ 25
化学・プラスチック	42	5	76	19	△ 14	42	2	79	19	△ 17
窯業・土石	5	20	60	20	0	5	20	60	20	0
鉄鋼・非鉄	26	0	81	19	△ 19	26	4	73	23	△ 19
金属製品	21	14	57	29	△ 15	21	5	62	33	△ 28
一般機械	35	9	57	34	△ 25	35	5	66	29	△ 24
電気機械	30	17	63	20	△ 3	30	13	64	23	△ 10
輸送用機械	28	14	61	25	△ 11	27	11	59	30	△ 19
精密機械	4	0	75	25	△ 25	4	0	75	25	△ 25
その他	18	11	78	11	0	18	5	67	28	△ 23
計	276	10	66	24	△ 14	275	7	69	24	△ 17
卸売業										
生産財	10	10	60	30	△ 20	10	10	60	30	△ 20
消費財	14	0	79	21	△ 21	14	0	79	21	△ 21
計	24	4	71	25	△ 21	24	4	71	25	△ 21
合計	300	9	67	24	△ 15	299	7	69	24	△ 17

(6) 国内航空

■ 7～9月実績（見込み）の『利用動向指数』は、木材・家具および消費財卸がゼロ水準で、残り13業種がマイナスとなった。業種全体の『利用動向指数』は△20で、前期（4～6月）実績からは強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『利用動向指数』見通しでは、パルプ・紙、輸送用機械などでマイナス幅が拡大する。この結果、業種全体の『利用動向指数』は△21と弱含み横ばいで推移する見込みであり、国内航空は全輸送機関のなかで『利用動向指数』がもっとも低く、利用の減退圧力が大きい。

国内航空利用の実績と見通し

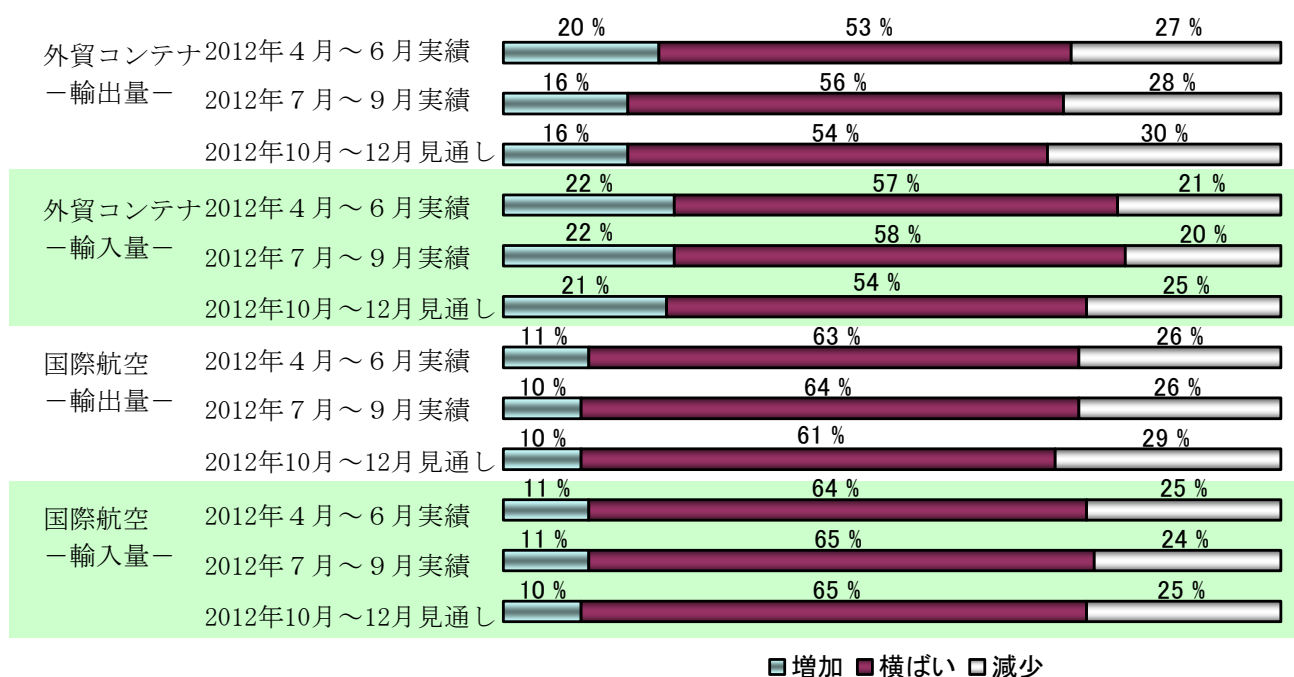
業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	回答社数	構成比(%)			利用動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	28	4	64	32	△28	28	4	64	32	△28	
繊維・衣服	10	0	70	30	△30	10	0	70	30	△30	
木材・家具	8	0	100	0	0	8	0	100	0	0	
パルプ・紙	8	0	50	50	△50	8	0	37	63	△63	
化学・プラスチック	30	7	83	10	△3	29	7	79	14	△7	
窯業・土石	7	0	71	29	△29	7	0	71	29	△29	
鉄鋼・非鉄	24	0	79	21	△21	24	0	75	25	△25	
金属製品	19	0	84	16	△16	19	0	89	11	△11	
一般機械	52	2	69	29	△27	52	2	65	33	△31	
電気機械	56	5	75	20	△15	56	5	74	21	△16	
輸送用機械	32	6	69	25	△19	32	0	69	31	△31	
精密機械	12	0	67	33	△33	12	0	83	17	△17	
その他	19	0	79	21	△21	19	0	74	26	△26	
計	305	3	74	23	△20	304	2	73	25	△23	
卸売業	生産財	16	6	69	25	△19	16	6	75	19	△13
	消費財	11	9	82	9	0	11	9	82	9	0
	計	27	7	74	19	△12	27	7	78	15	△8
合計	332	3	74	23	△20	331	3	73	24	△21	

－ 3. 輸出入貨物量の動向－

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』をみると、外貿コンテナの輸入および国際航空の輸入では前期（4～6月）実績より強含み横ばいで推移し、外貿コンテナの輸入では、すべての輸送機関のなかで唯一プラスを維持した。一方、外貿コンテナの輸出および国際航空の輸出では『荷動き指数』の低下がみられた。

■ 10～12月の見通しについては、すべての輸送機関において『荷動き指数』の低下がみられる。この結果、『荷動き指数』がプラスの輸送機関は皆無となり、総じてみると荷動き回復の足取りは重い。

輸出入貨物量の実績と見通し



(1) 外貿コンテナ ー輸出ー

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、生産財卸など3業種がプラス、食料品・飲料など3業種がゼロ水準で、窯業・土石、鉄鋼・非鉄など9業種がマイナスを示した。業種全体の『荷動き指数』は△12で、前期（4～6月）実績からは5ポイント低下した。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、繊維・衣服がゼロ水準に浮上する一方、電気機械および生産財卸がゼロ水準に下降する。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△14と2ポイント低下する見通しで、荷動きの減退圧力はさらに強まるものとみられる。

外貿コンテナによる輸出量の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	18	22	56	22	0	18	22	56	22	0	
繊維・衣服	12	17	50	33	△16	12	17	66	17	0	
木材・家具	6	17	66	17	0	6	17	66	17	0	
パルプ・紙	16	25	50	25	0	16	25	50	25	0	
化学・プラスチック	55	9	69	22	△13	55	9	66	25	△16	
窯業・土石	15	0	47	53	△53	15	0	47	53	△53	
鉄鋼・非鉄	46	4	57	39	△35	46	11	52	37	△26	
金属製品	21	19	57	24	△5	21	14	62	24	△10	
一般機械	63	15	48	37	△22	63	14	45	41	△27	
電気機械	54	28	46	26	2	53	28	44	28	0	
輸送用機械	47	23	64	13	10	47	23	58	19	4	
精密機械	12	8	67	25	△17	12	17	58	25	△8	
その他	29	10	52	38	△28	29	7	62	31	△24	
計	394	15	56	29	△14	393	16	54	30	△14	
卸売業	生産財	12	25	67	8	17	12	17	66	17	0
	消費財	9	0	67	33	△33	9	0	44	56	△56
	計	21	14	67	19	△5	21	10	57	33	△23
合計	415	16	56	28	△12	414	16	54	30	△14	

(2) 外貿コンテナ ー輸入ー

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、繊維・衣服、生産財卸など7業種がプラス、食料品・飲料がゼロ水準で、パルプ・紙、窯業・土石など7業種がマイナスなった。業種全体の『荷動き指数』はプラス2で、前期（4～6月）実績からは強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、食料品・飲料がプラスに浮上する一方、その他の製造業がマイナスに落ち込むほか、過半数の業種で悪化がみられる。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△4と6ポイント低下する見込みで、荷動きは減退に向かう見通しである。

外貿コンテナによる輸入量の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少	
食料品・飲料	22	18	64	18	0	22	36	46	18	18
繊維・衣服	18	28	67	5	23	18	28	56	16	12
木材・家具	11	9	64	27	△18	11	9	64	27	△18
パルプ・紙	14	7	50	43	△36	14	14	50	36	△22
化学・プラスチック	47	13	72	15	△2	47	15	64	21	△6
窯業・土石	17	12	53	35	△23	17	6	59	35	△29
鉄鋼・非鉄	34	12	59	29	△17	34	15	56	29	△14
金属製品	17	18	71	11	7	17	18	71	11	7
一般機械	61	19	48	33	△14	61	21	45	34	△13
電気機械	58	34	52	14	20	58	26	55	19	7
輸送用機械	54	28	57	15	13	54	28	50	22	6
精密機械	14	36	50	14	22	14	36	50	14	22
その他	29	21	69	10	11	29	10	62	28	△18
計	396	21	59	20	1	396	21	55	24	△3
卸売業										
生産財	19	37	53	10	27	19	26	58	16	10
消費財	14	14	57	29	△15	14	21	36	43	△22
計	33	27	55	18	9	33	24	49	27	△3
合計	429	22	58	20	2	429	21	54	25	△4

(3) 国際航空 —輸出—

■ 7～9月実績（見込み）の『荷動き指数』は、プラスの業種は皆無で、木材・家具および化学・プラスチックがゼロ水準にとどまる以外は、残り13業種がマイナスとなった。業種全体の『荷動き指数』は△16で、前期（4～6月）実績からは弱含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、精密機械がゼロ水準まで戻す一方、化学・プラスチックがマイナスに下降するほか、電気機械や輸送用機械などでもマイナス幅が拡大する。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△19と3ポイント低下する見込みで、荷動きの減退圧力はさらに強まるものとみられる。

国際航空による輸出量の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	10	10	70	20	△10	10	10	70	20	△10	
繊維・衣服	10	0	90	10	△10	10	0	90	10	△10	
木材・家具	3	0	100	0	0	3	0	100	0	0	
パルプ・紙	3	0	67	33	△33	3	0	67	33	△33	
化学・プラスチック	35	14	72	14	0	35	9	80	11	△2	
窯業・土石	6	17	50	33	△16	6	17	50	33	△16	
鉄鋼・非鉄	27	3	67	30	△27	27	7	56	37	△30	
金属製品	18	11	56	33	△22	18	11	50	39	△28	
一般機械	59	6	58	36	△30	59	6	58	36	△30	
電気機械	65	17	52	31	△14	63	17	50	33	△16	
輸送用機械	44	14	70	16	△2	44	11	69	20	△9	
精密機械	15	7	80	13	△6	15	13	74	13	0	
その他	15	6	67	27	△21	15	0	60	40	△40	
計	310	11	64	25	△14	308	10	62	28	△18	
卸売業	生産財	11	9	73	18	△9	11	10	45	45	△35
	消費財	9	11	45	44	△33	9	22	45	33	△11
	計	20	10	60	30	△20	20	15	45	40	△25
合計	330	10	64	26	△16	328	10	61	29	△19	

(4) 国際航空 — 輸入 —

■ 7～9月実績(見込み)の『荷動き指数』は、窯業・土石など4業種がプラスで、残り11業種がマイナスとなった。業種全体の『荷動き指数』は△13で、前期(4～6月)実績からは強含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『荷動き指数』見通しでは、消費財卸がプラスに反転し、金属製品もゼロ水準まで戻す一方、化学・プラスチックおよび生産財卸がマイナスに落ち込み、窯業・土石もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『荷動き指数』は△15と2ポイントの低下が見込まれ、この結果、輸出と同様、荷動きは減退が続く見通しである。

国際航空による輸入量の実績と見通し

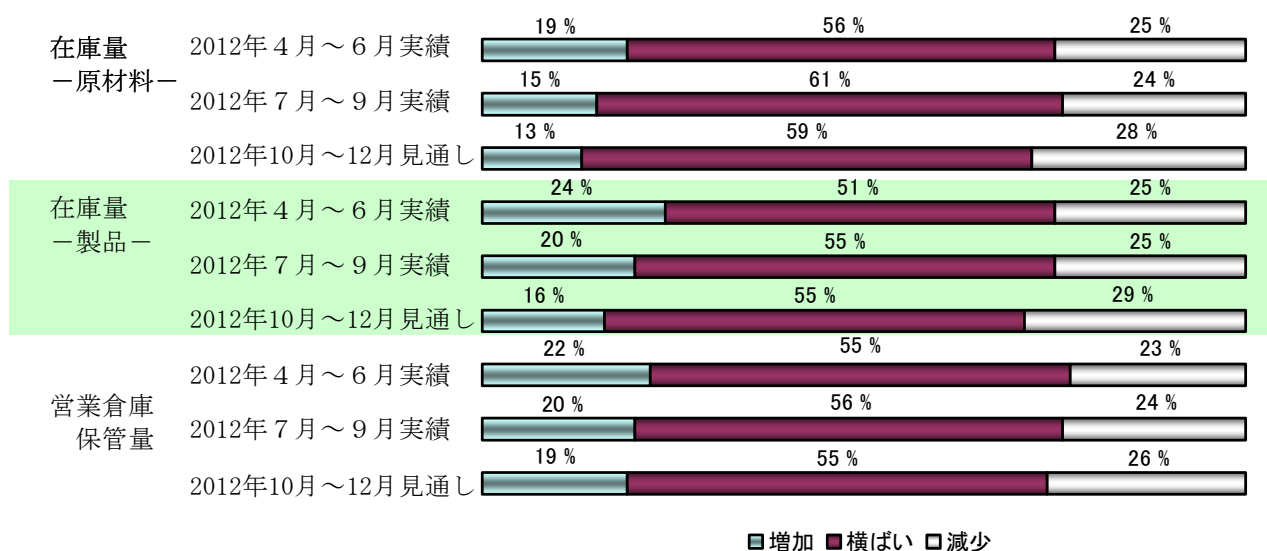
業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	回答社数	構成比(%)			荷動き指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	10	10	60	30	△ 20	10	10	60	30	△ 20	
繊維・衣服	11	0	82	18	△ 18	11	0	82	18	△ 18	
木材・家具	4	0	75	25	△ 25	4	0	75	25	△ 25	
パルプ・紙	3	0	67	33	△ 33	3	0	67	33	△ 33	
化学・プラスチック	29	14	76	10	4	29	7	79	14	△ 7	
窯業・土石	6	33	50	17	16	6	17	66	17	0	
鉄鋼・非鉄	23	9	65	26	△ 17	23	0	70	30	△ 30	
金属製品	14	14	65	21	△ 7	14	21	58	21	0	
一般機械	53	4	60	36	△ 32	53	7	57	36	△ 29	
電気機械	55	15	58	27	△ 12	54	13	65	22	△ 9	
輸送用機械	37	11	70	19	△ 8	37	8	68	24	△ 16	
精密機械	12	17	75	8	9	12	25	67	8	17	
その他	17	11	65	24	△ 13	17	0	65	35	△ 35	
計	274	11	65	24	△ 13	273	9	66	25	△ 16	
卸売業	生産財	14	21	65	14	7	14	14	65	21	△ 7
	消費財	8	12	63	25	△ 13	8	38	38	24	14
	計	22	18	64	18	0	22	23	54	23	0
合計		296	11	65	24	△ 13	295	10	65	25	△ 15

－ 4. 在庫量と営業倉庫利用の動向－

■ 7～9月実績(見込み)の在庫量と営業倉庫保管量の動向をみると、原材料在庫、製品在庫、営業倉庫保管量とも、前期(4～6月)実績より低下し、引き続きすべての『動向指数』がマイナスとなった。

■ 10～12月の見通しについては、いずれの『動向指数』も悪化し、引き続きすべてがマイナスとなる。このため、在庫圧縮および営業倉庫保管量の削減圧力が強まる見通しである。

在庫量と営業倉庫保管量の実績と見通し



(1) 在庫量 —原材料—

■ 7～9月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、プラスの業種は皆無で、全15業種がマイナスとなった。業種全体の『在庫動向指数』は△9で、前期（4～6月）実績からは3ポイント低下した。

■ 10～12月の『在庫動向指数』見通しでは、引き続き全15業種がマイナスを示し、かつ過半数の業種でマイナス幅が拡大する。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は6ポイント悪化して△15となり、原材料在庫の圧縮がさらに進むとみられる。

在庫量（原材料）の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	91	15	58	27	△12	91	20	57	23	△3	
繊維・衣服	41	17	63	20	△3	41	7	73	20	△13	
木材・家具	39	18	59	23	△5	39	15	62	23	△8	
パルプ・紙	51	17	59	24	△7	51	12	59	29	△17	
化学・プラスチック	100	12	68	20	△8	100	11	72	17	△6	
窯業・土石	34	14	68	18	△4	34	9	62	29	△20	
鉄鋼・非鉄	90	13	65	22	△9	90	11	65	24	△13	
金属製品	56	19	52	29	△10	56	9	50	41	△32	
一般機械	80	9	63	28	△19	80	8	61	31	△23	
電気機械	108	26	46	28	△2	107	21	46	33	△12	
輸送用機械	92	18	58	24	△6	92	14	50	36	△22	
精密機械	21	14	57	29	△15	21	19	48	33	△14	
その他	51	13	67	20	△7	51	8	61	31	△23	
計	854	16	60	24	△8	853	13	59	28	△15	
卸売業	生産財	36	3	72	25	△22	36	14	58	28	△14
	消費財	27	4	74	22	△18	27	11	67	22	△11
	計	63	3	73	24	△21	63	13	62	25	△12
合計	917	15	61	24	△9	916	13	59	28	△15	

(2) 在庫量 —製品—

■ 7～9月実績（見込み）の『在庫動向指数』は、繊維・衣服、パルプ・紙など4業種がプラス、窯業・土石がゼロ水準で、一般機械、生産財卸など10業種がマイナスを示した。業種全体の『在庫動向指数』は△5で、前期（4～6月）実績より4ポイント低下した。

■ 10～12月の『在庫動向指数』見通しでは、食料品・飲料がプラスに反転する一方、木材・家具、パルプ・紙など4業種がマイナスに沈み、マイナスの業種は13業種となる。この結果、業種全体の『在庫動向指数』は△13と8ポイント悪化する見込みで、製品在庫の圧縮がさらに進むとみられる。

在庫量（製品）の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	回答社数	構成比(%)			在庫動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
製造業	食料品・飲料	94	20	57	23	△3	93	26	55	19	7
	繊維・衣服	42	38	43	19	19	42	31	48	21	10
	木材・家具	39	23	59	18	5	39	17	62	21	△4
	パルプ・紙	51	33	43	24	9	51	24	49	27	△3
	化学・プラスチック	104	16	57	27	△11	104	11	68	21	△10
	窯業・土石	35	23	54	23	0	35	11	58	31	△20
	鉄鋼・非鉄	88	16	59	25	△9	88	13	59	28	△15
	金属製品	56	25	39	36	△11	56	13	48	39	△26
	一般機械	82	17	51	32	△15	82	12	54	34	△22
	電気機械	110	22	53	25	△3	110	17	49	34	△17
	輸送用機械	95	19	56	25	△6	95	17	47	36	△19
	精密機械	22	18	59	23	△5	22	14	59	27	△13
	その他	53	23	57	20	3	53	11	59	30	△19
計	871	21	54	25	△4	870	16	55	29	△13	
卸売業	生産財	57	7	63	30	△23	57	21	47	32	△11
	消費財	42	14	69	17	△3	42	14	60	26	△12
	計	99	10	66	24	△14	99	18	53	29	△11
合計	970	20	55	25	△5	969	16	55	29	△13	

(3) 営業倉庫保管量

- 7～9月実績（見込み）の『保管動向指数』は、繊維・衣服など7業種がプラスで、窯業・土石、生産財卸など8業種がマイナスとなった。業種全体の『保管動向指数』は△4で、前期（4～6月）実績からは3ポイントの低下がみられた。
- 10～12月の『保管動向指数』見通しでは、パルプ・紙、輸送用機械、その他の製造業の3業種がマイナスに落ち込むほか、鉄鋼・非鉄がゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『保管動向指数』は△7と3ポイント低下する見込みで、営業倉庫保管量は削減の方向に向かう見通しである。

営業倉庫保管量の実績と見通し

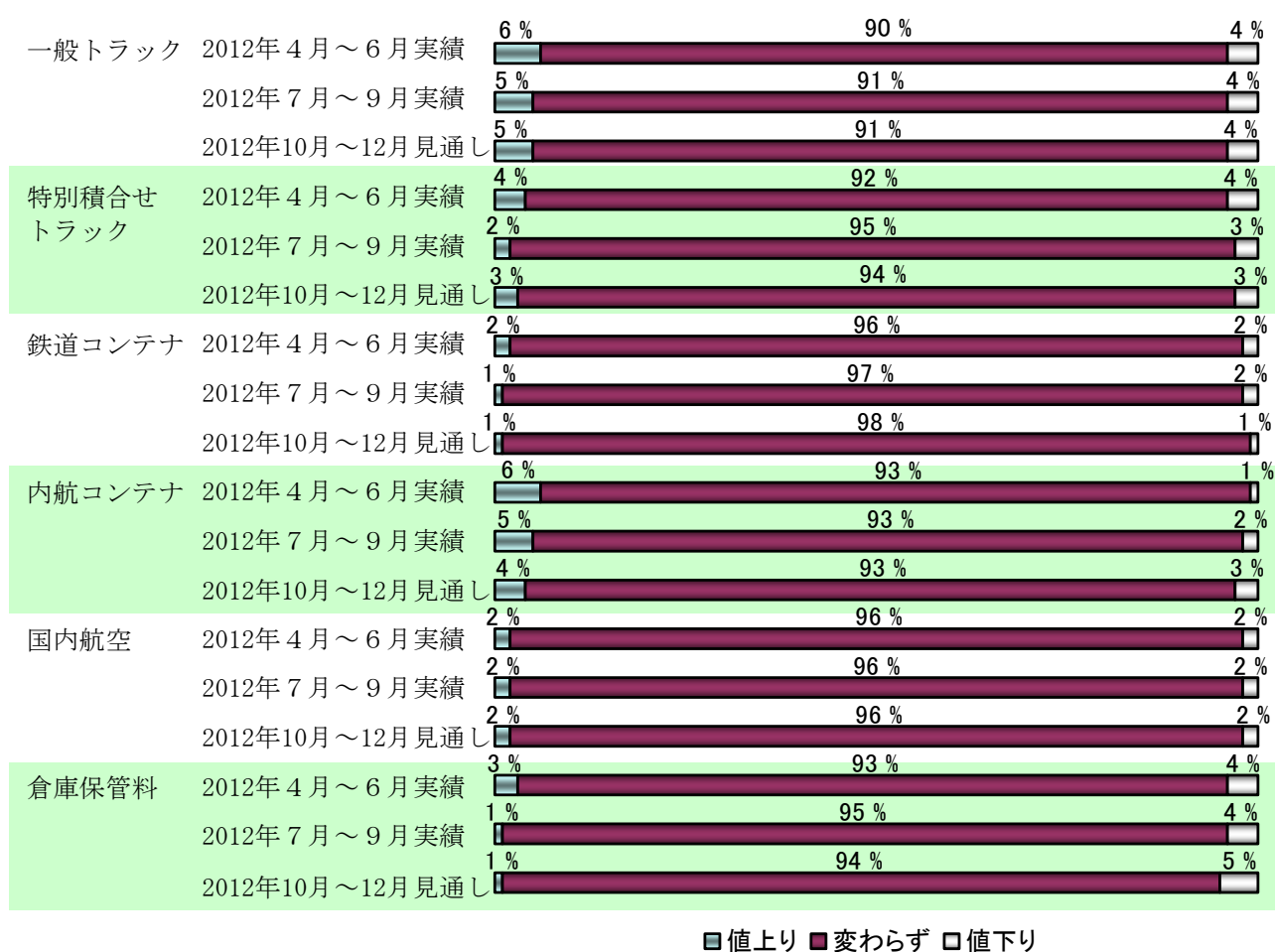
業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	回答社数	構成比(%)			保管動向指数	
		増加	横ばい	減少			増加	横ばい	減少		
食料品・飲料	79	24	48	28	△4	79	20	57	23	△3	
繊維・衣服	25	40	36	24	16	25	32	52	16	16	
木材・家具	26	15	73	12	3	26	19	73	8	11	
パルプ・紙	42	31	43	26	5	42	24	45	31	△7	
化学・プラスチック	84	17	52	31	△14	84	13	62	25	△12	
窯業・土石	24	17	50	33	△16	24	12	63	25	△13	
鉄鋼・非鉄	61	16	71	13	3	61	20	60	20	0	
金属製品	31	13	61	26	△13	31	13	61	26	△13	
一般機械	59	17	58	25	△8	59	17	56	27	△10	
電気機械	76	22	49	29	△7	76	18	50	32	△14	
輸送用機械	65	23	59	18	5	65	18	50	32	△14	
精密機械	13	23	62	15	8	13	31	54	15	16	
その他	37	24	54	22	2	37	19	49	32	△13	
計	622	21	55	24	△3	622	18	56	26	△8	
卸売業	生産財	48	6	69	25	△19	49	22	51	27	△5
	消費財	30	13	64	23	△10	30	10	57	33	△23
	計	78	9	67	24	△15	79	18	53	29	△11
合計		700	20	56	24	△4	701	19	55	26	△7

－ 5. 運賃・料金の動向－

■ 7～9月の運賃・料金水準『動向指数』実績（見込み）は、内航コンテナでプラス3、倉庫保管料で△3となる以外は、残りすべての機関でゼロ水準±1の範囲内に収まり、概ね現状維持の傾向が強い。前期（4～6月）実績との比較では、『動向指数』は総じて小幅の変化で推移した。

■ 10～12月の『動向指数』見通しについては、倉庫保管料では△4と弱含み横ばいで推移し、料金はやや低下方向に動く見込みであるが、その他の機関では『動向指数』がゼロ水準±1の範囲内にとどまり、運賃水準の大幅な変動は見込めない。

運賃・料金の実績と見通し



(1) 一般トラック運賃

- 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、窯業・土石、生産財卸など10業種がプラス、パルプ・紙および精密機械がゼロ水準で、木材・家具、輸送用機械、その他の製造業の3業種がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス1で、前期(4～6月)実績からは弱含み横ばいで推移した。
- 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、パルプ・紙および鉄鋼・非鉄がマイナスに沈み、化学プラスチックなど4業種がゼロ水準まで下降する一方、輸送用機械がプラスに浮上し、食料品・飲料などでもプラス幅が拡大する。この結果、業種全体の『運賃動向指数』は横ばいで推移し、運賃水準には大きな変化がないものとみられる。

一般トラック運賃の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	104	5	91	4	1	104	8	88	4	4
繊維・衣服	40	5	95	0	5	39	5	95	0	5
木材・家具	39	5	87	8	△3	38	5	87	8	△3
パルプ・紙	53	6	88	6	0	53	3	89	8	△5
化学・プラスチック	108	4	94	2	2	108	4	92	4	0
窯業・土石	37	11	84	5	6	37	5	90	5	0
鉄鋼・非鉄	95	8	88	4	4	95	5	89	6	△1
金属製品	58	5	95	0	5	58	5	93	2	3
一般機械	90	4	93	3	1	90	3	94	3	0
電気機械	115	4	93	3	1	114	2	96	2	0
輸送用機械	99	3	90	7	△4	99	7	87	6	1
精密機械	21	5	90	5	0	21	5	90	5	0
その他	54	6	87	7	△1	52	9	79	12	△3
計	913	5	91	4	1	908	5	90	5	0
卸売業										
生産財	60	10	90	0	10	59	12	88	0	12
消費財	40	2	98	0	2	39	3	97	0	3
計	100	7	93	0	7	98	8	92	0	8
合計	1,013	5	91	4	1	1,006	5	91	4	1

(2) 特別積合せトラック運賃

- 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、窯業・土石および生産財卸がプラス、繊維・衣服など8業種がゼロ水準で、食料品・飲料、精密機械など5業種がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』は△1で、前期（4～6月）実績からは弱含み横ばいで推移した。
- 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄がマイナスに沈む一方、繊維・衣服、輸送用機械、その他の製造業がプラスに浮上する。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はゼロ水準と強含み横ばいで推移する見込みで、運賃水準は現状維持となる見通しである。

特別積合せトラック運賃の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	71	0	96	4	△4	71	1	95	4	△3	
繊維・衣服	35	3	94	3	0	35	3	97	0	3	
木材・家具	27	4	92	4	0	27	4	92	4	0	
パルプ・紙	36	6	88	6	0	35	9	82	9	0	
化学・プラスチック	87	1	96	3	△2	87	1	96	3	△2	
窯業・土石	27	4	96	0	4	27	4	96	0	4	
鉄鋼・非鉄	60	3	94	3	0	60	3	92	5	△2	
金属製品	42	0	100	0	0	42	0	100	0	0	
一般機械	68	0	97	3	△3	68	0	97	3	△3	
電気機械	93	1	96	3	△2	93	0	98	2	△2	
輸送用機械	72	4	92	4	0	72	7	89	4	3	
精密機械	11	0	91	9	△9	11	0	91	9	△9	
その他	40	3	94	3	0	39	8	87	5	3	
計	669	2	95	3	△1	667	3	94	3	0	
卸売業	生産財	48	6	92	2	4	47	11	87	2	9
	消費財	26	4	92	4	0	26	4	92	4	0
	計	74	5	92	3	2	73	8	89	3	5
合計	743	2	95	3	△1	740	3	94	3	0	

(3) 鉄道コンテナ運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、プラスの業種は皆無で、繊維・衣服など12業種がゼロ水準、食料品・飲料、パルプ・紙、精密機械の3業種がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』は△1で、前期（4～6月）実績からは弱含み横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、その他の製造業がマイナスに落ち込む一方、化学・プラスチックおよび輸送用機械がプラスに浮上し、食料品・飲料もゼロ水準まで戻す。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はゼロ水準と強含み横ばいで推移する見込みで、運賃水準は現状維持となる見通しである。

鉄道コンテナ運賃の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	50	0	98	2	△2	50	0	100	0	0	
繊維・衣服	12	0	100	0	0	12	0	100	0	0	
木材・家具	19	0	100	0	0	19	0	100	0	0	
パルプ・紙	34	0	97	3	△3	34	0	97	3	△3	
化学・プラスチック	76	1	98	1	0	76	3	96	1	2	
窯業・土石	13	0	100	0	0	13	0	100	0	0	
鉄鋼・非鉄	39	0	100	0	0	39	0	100	0	0	
金属製品	22	0	100	0	0	22	0	100	0	0	
一般機械	40	3	94	3	0	40	3	94	3	0	
電気機械	37	0	100	0	0	37	0	100	0	0	
輸送用機械	36	3	94	3	0	36	6	94	0	6	
精密機械	7	0	86	14	△14	6	0	83	17	△17	
その他	27	4	92	4	0	25	4	88	8	△4	
計	412	1	97	2	△1	409	1	98	1	0	
卸売業	生産財	14	0	100	0	0	14	0	100	0	0
	消費財	13	0	100	0	0	13	0	100	0	0
	計	27	0	100	0	0	27	0	100	0	0
合計	439	1	97	2	△1	436	1	98	1	0	

(4) 内航コンテナ運賃

- 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、窯業・土石、輸送用機械など8業種がプラス、繊維・衣服など5業種がゼロ水準で、パルプ・紙および精密機械がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はプラス3で、前期（4～6月）実績からは2ポイントの低下がみられた。
- 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、パルプ・紙がプラスに浮上する一方、一般機械がマイナスに落ち込み、食料品・飲料など4業種もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『運賃動向指数』はプラス1と2ポイント低下する見込みで、運賃水準には大きな変化がないものとみられる。

内航コンテナ運賃の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
製 造 業	食料品・飲料	33	6	94	0	6	33	3	94	3	0
	繊維・衣服	5	0	100	0	0	5	0	100	0	0
	木材・家具	11	9	91	0	9	11	9	91	0	9
	パルプ・紙	17	0	94	6	△ 6	17	6	94	0	6
	化学・プラスチック	44	5	93	2	3	44	5	90	5	0
	窯業・土石	3	33	67	0	33	3	0	100	0	0
	鉄鋼・非鉄	26	0	100	0	0	26	0	100	0	0
	金属製品	16	6	94	0	6	16	6	94	0	6
	一般機械	37	5	90	5	0	37	3	92	5	△ 2
	電気機械	33	0	100	0	0	33	0	100	0	0
	輸送用機械	23	9	91	0	9	23	9	91	0	9
	精密機械	4	0	75	25	△ 25	4	0	75	25	△ 25
その他	19	11	84	5	6	18	11	78	11	0	
計	271	5	93	2	3	270	4	93	3	1	
卸 売 業	生産財	9	0	100	0	0	9	0	100	0	0
	消費財	11	9	91	0	9	11	9	91	0	9
	計	20	5	95	0	5	20	5	95	0	5
合計	291	5	93	2	3	290	4	93	3	1	

(5) 国内航空運賃

■ 7～9月実績（見込み）の『運賃動向指数』は、繊維・衣服、窯業・土石など5業種がプラス、食料品・飲料など8業種がゼロ水準で、電気機械およびその他の製造業がマイナスとなった。業種全体の『運賃動向指数』はゼロ水準で、前期（4～6月）実績からは横ばいで推移した。

■ 10～12月の『運賃動向指数』見通しでは、生産財卸がゼロ水準に下降し、電気機械およびのその他の製造業のマイナス幅が拡大する以外に動きはみられず、業種全体の『運賃動向指数』は横ばいで推移しよう。このため、運賃水準は現状維持が続く見通しである。

国内航空運賃の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し				
	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数	回答社数	構成比(%)			運賃動向指数
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り	
食料品・飲料	28	0	100	0	0	28	0	100	0	0
繊維・衣服	11	9	91	0	9	11	9	91	0	9
木材・家具	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0
パルプ・紙	7	0	100	0	0	7	0	100	0	0
化学・プラスチック	32	3	94	3	0	32	3	94	3	0
窯業・土石	8	12	88	0	12	8	12	88	0	12
鉄鋼・非鉄	26	0	100	0	0	26	0	100	0	0
金属製品	18	0	100	0	0	18	0	100	0	0
一般機械	53	2	96	2	0	53	2	96	2	0
電気機械	58	0	97	3	△3	57	0	96	4	△4
輸送用機械	29	3	97	0	3	29	3	97	0	3
精密機械	12	8	84	8	0	12	8	84	8	0
その他	18	0	94	6	△6	17	0	88	12	△12
計	307	2	96	2	0	305	2	96	2	0
卸売業										
生産財	14	7	93	0	7	14	7	86	7	0
消費財	11	9	91	0	9	11	9	91	0	9
計	25	8	92	0	8	25	8	88	4	4
合計	332	2	96	2	0	330	2	96	2	0

(6) 営業倉庫保管料金

■ 7～9月実績（見込み）の『料金動向指数』は、食料品・飲料、輸送用機械、精密機械の3業種がプラス、繊維・衣服およびその他の製造業がゼロ水準で、窯業・土石、生産財卸など10業種がマイナスとなった。業種全体の『料金動向指数』は△3で、前期(4～6月)実績からは2ポイント低下した。

■ 10～12月の『料金動向指数』見通しでは、鉄鋼・非鉄がプラスに浮上する一方、輸送用機械およびその他の製造業がマイナスに落ち込み、精密機械もゼロ水準まで下降する。この結果、業種全体の『料金動向指数』は△4と弱含み横ばいで推移し、料金水準は下降基調に変化する見通しである。

営業倉庫保管料金の実績と見通し

業種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	回答社数	構成比(%)			料金動向指数	
		値上り	不変	値下り			値上り	不変	値下り		
食料品・飲料	63	2	98	0	2	63	2	98	0	2	
繊維・衣服	19	5	90	5	0	18	6	88	6	0	
木材・家具	19	0	95	5	△5	19	0	95	5	△5	
パルプ・紙	38	3	92	5	△2	38	3	92	5	△2	
化学・プラスチック	83	0	95	5	△5	83	1	95	4	△3	
窯業・土石	18	0	89	11	△11	18	0	83	17	△17	
鉄鋼・非鉄	50	0	98	2	△2	50	2	98	0	2	
金属製品	28	0	96	4	△4	28	0	96	4	△4	
一般機械	55	2	93	5	△3	55	0	93	7	△7	
電気機械	71	1	96	3	△2	71	0	96	4	△4	
輸送用機械	63	3	95	2	1	63	3	91	6	△3	
精密機械	12	17	75	8	9	12	17	66	17	0	
その他	37	0	100	0	0	36	0	97	3	△3	
計	556	2	95	3	△1	554	1	94	5	△4	
卸売業	生産財	33	3	88	9	△6	32	3	88	9	△6
	消費財	27	0	96	4	△4	27	0	96	4	△4
	計	60	1	92	7	△6	59	1	92	7	△6
合計	616	1	95	4	△3	613	1	94	5	△4	

－ 6. 物流コスト割合の動向－

■ 売上高に対する物流コスト割合の動向について、7～9月実績（見込み）の『動向指数』は、パルプ・紙、化学・プラスチックなど10業種がプラス、鉄鋼・非鉄およびその他の製造業がゼロ水準で、木材・家具、電気機械、精密機械の3業種がマイナスを示した。業種全体の『動向指数』はプラス6で、前期（4～6月）実績からは2ポイント上昇した。

■ 10～12月の『動向指数』見通しでは、その他の製造業がプラスに浮上する一方、窯業・土石、鉄鋼・非鉄、金属製品がマイナスに沈む。業種全体の『動向指数』はプラス3と3ポイント低下する見込みで、この結果、増勢は弱まるものとみられる。

物流コスト割合の実績と見通し

業 種	2012年7月～9月実績					2012年10月～12月見通し					
	回答社数	構成比(%)			動 向 指 数	回答社数	構成比(%)			動 向 指 数	
		上昇	不変	下降			上昇	不変	下降		
食 料 品 ・ 飲 料	105	20	71	9	11	105	21	71	8	13	
繊 維 ・ 衣 服	49	14	76	10	4	49	14	74	12	2	
木 材 ・ 家 具	42	12	71	17	△ 5	42	9	74	17	△ 8	
パ ル プ ・ 紙	54	28	61	11	17	54	28	59	13	15	
化学・プラスチック	108	20	72	8	12	108	19	71	10	9	
製 造 業	窯 業 ・ 土 石	38	16	71	13	3	38	13	71	16	△ 3
	鉄 鋼 ・ 非 鉄	93	15	70	15	0	91	14	71	15	△ 1
	金 属 製 品	59	15	73	12	3	59	15	68	17	△ 2
	一 般 機 械	87	18	75	7	11	87	18	71	11	7
	電 気 機 械	125	17	62	21	△ 4	124	20	55	25	△ 5
	輸 送 用 機 械	103	20	63	17	3	103	24	59	17	7
	精 密 機 械	26	12	73	15	△ 3	26	19	58	23	△ 4
	そ の 他	56	9	82	9	0	56	16	70	14	2
	計	945	18	70	12	6	942	19	66	15	4
	卸 売 業	生 産 財	67	18	76	6	12	67	16	75	9
消 費 財		46	20	72	8	12	46	15	72	13	2
計		113	19	74	7	12	113	16	73	11	5
合 計	1,058	18	70	12	6	1,055	18	67	15	3	